

「充電式の電車!?(3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

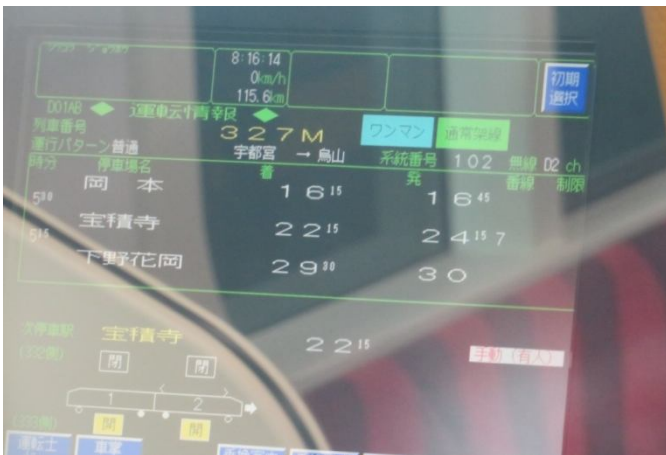
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

とりあえずこの「電車」に乗車することにした。烏山線は1~2時間に1本しかないので、これを逃すとその後の旅程が狂ってしまうのだ。



車内の形式表示には「EV-E301系」とある。車両形式に「EV」の冠している鉄道車両を、私は初めて見た。この車両は「充電式電車」なのかも知れない。



ちょっと運転席も覗かせてもらった。新型車両らしく、操作パネルは電子タッチパネルになっている。一般の乗客が見る時刻表は「1分刻み」の表示だが、鉄道員が使う時刻表は「15秒刻み」になっているのもよくわかる。例えば、岡本到着は8時16分15秒着、16分45秒発の「30秒停車」という緻密さだ。しかし、一番注目したのは「列車番号」の「327M」という表示である。末尾がMだと「電車」、Dだと「ディーゼルカー(気動車)」、何もないと「機関車牽引列車」を意味する。この列車はMなので「電車」だ。非電化の烏山線に「電車」が入線するのだろうか?



列車はしばらく東北本線の本線を走ったあと、宝積寺駅から烏山線に乗り入れる。いくつも「分岐器(ポイント)」を切って「渡り線」を通過するのが面白い。一瞬、京王線の高幡不動駅を思い出した。



宝積寺駅の手前で、運転士がタッチパネルを操作した。何か重要なシステムの切り替えをしている。どうやら、ここから非電化区間に入るための準備らしい。



烏山線のホームは、宝積寺駅の一番右端(東側)にある。頭上にはまだ架線(集電用の電線)が続いている。烏山線は本当に「非電化」なのだろうか? 実はいつの間にか電化されていたのではなかろうか?